

令和6年4月市長定例記者会見

日時：令和6年4月1日（月） 午後1時30分～

場所：射水市役所会議室401

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、射水CATV、
庄東タイムズ・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
都市計画課長、観光まちづくり課長、保健センター所長

Q1. 健康チェックシステムについて、元々あるものを導入したのか。

A1. 健康チェックシステム「こころの体温計」は、株式会社FBIが東海大学医学部と共同開発したもので、射水市が県内で初めて導入した。県外では255自治体で導入されており、近隣では石川県能美市、新潟県見附市が導入している。

Q2. ロードマップは射水市の復旧・復興に関するものか。

A2. 射水市の復旧・復興ロードマップである。県のロードマップとの整合、内容の見直しを適宜行いながら策定に取り組んでいる。予定としては、4月上旬に取りまとめを行い、市ホームページや射水市LINE公式アカウントなどで市民への周知を図りたい。ロードマップは、復旧・復興に向けた取組が見える化することで市民の不安軽減、安心した暮らし、1日も早い復興に繋げるものである。先に開催した相談会など、様々な機会を通じながら、市民に説明、周知を図っていきたいと考えている。

Q3. ロードマップの内容や概要、いつを目途に公表するのか教えていただきたい。また、高岡市や氷見市と比べると射水市の復旧・復興スケジュールは少し遅れている印象がある。進捗度を市長はどう受け止めておられるか。

A3. ロードマップの中身は作業中だが、生活再建に向けた様々な取組の手順、道路や下水道の復旧、その他復興に向けて取り組んでいくべき事業のスケジュールを示したいと考えている。また、個別の事業に関しては、詳

細な内容を作り、実際に実施する場合には、地元説明会・議会で説明する必要があると思っている。まずは全体を把握できるようなロードマップの作成を考えている。

県と高岡市は既にロードマップを公表しており、氷見市も骨子的なものを出している。射水市としては、まず市民にスケジュール感、取組を見える化し、不安の軽減に繋げていただくために策定する。市民への対応は、3月23日、24日で個別相談会を行っている。これまでもホームページ、広報に支援制度・復興に向けた取組の一覧を示した資料を同封するなど様々な機会を通じて周知している。それと合わせてロードマップも公表し、将来の復興に向けた道筋を市民と共有できればと思っている。

いつまでかということだが、詳細を固めるために4月上旬、遅くても来週中ぐらいには公表したいと思っている。

Q 4. 他市では、首長が現地住民に対しての説明会に出席しているところがあるが、夏野市長自身もそのような機会をもつのか。

A 4. 被災者の皆さんは、ショックを受けられており、不安な思いをお持ちだと思っている。私自身も実際現地に行き、状況を見させていただいている。全ての方にお会いできていないため、市長が視察に来ていないと言われることもあるが、しっかり現地で現状を見ている。説明する機会については、必要性や声があれば、取り組みたいと思っている。

まずは、市民が今後どうしていけばいいのか、何をすればいいのか、不安があるならば、しっかりと個々の相談を受け、それに対してきめ細かな対応をすることが先と考えており、個別相談会を開催した。

Q 5. 市が自ら説明会を設定する予定は今のところないのか。

A 5. 復興ロードマップでは、大まかなスケジュールを出している。それに関して、市民が説明を求めるのであれば、お話したいと思う。例えば、下水道の復旧について、どの地区からいつ頃とりかかるのかなど詳細な内容がある程度決まった情報を皆さんは知りたいのではないかとと思っている。

Q 6. 健康チェックシステムに関連して、射水市民の心の現状はどのようなか？

A 6. コロナ禍を経て、災害もあり、心の状態が不安定な方が増えてきていると感じている。具体的な数字等については、担当に確認していただきたい。

気軽にセルフチェックを活用していただきながら、早めに変化に気づき、心の健康を保てるような行動に繋げていただくため導入を図った。

Q 7. 個別相談会は、夏野市長が参加され、個別に相談を聞いたのか？

A 7. 3月23日、24日に開催した被災者個別相談会は参加しなかった。この相談会は、罹災証明の住家の被害の程度が準半壊以上と判定された方に対して、相談会の案内をしたものである。2日間で4回以上開催し、ご予約をいただいた方や当日来られた方を含め32世帯が参加された。住宅の応急修理、補耐震改修の支援、公費解体の仕組みなど住宅に関する相談が多くあった。参加された方については、しっかり対応させていただきながら、将来に向けてどう考えていくのか対応できたと思う。

Q 8. 相談会で出た意見を、ロードマップに反映をさせていくのか。

A 8. ロードマップは、全体の復興に向けた工程表である。今回の相談会では、ロードマップで今後考えていくスケジュールを含めて質問にお答えしている。

Q 9. ある程度大枠が決まっており、それを手元に用意した上で、相談会を実施したのか。

A 9. 例えば、下水道の復旧は何箇所もあり、費用は10数億、時期は大体2年ほどかかると予想している。工事の進捗度合い、財源の確保など様々な状況によって、工程が少し伸びる可能性はあると思うが、大体のスケジュール感をそれぞれの事業において把握している。それを取りまとめて、ロードマップとして市民と情報共有する中で、今後の復旧の見通しをしっかりと見える化し、共有していこうという思いで作成している。

Q 10. 公費解体の現状はどうか。

A 10. 公費解体は、既に相談など多くの方からいただいている。申込みは6

世帯であり（4月1日現在）、これから増える見込みである。発注契約の手続きを踏まなければいけないため、申込み分は設計・発注し、解体していく。

Q 1 1. いつ頃行うのか。

A 1 1. 今月中に発注等を行い、早くて6月になる。

Q 1 2. 液状化対策に関して、道路と宅地の面となった敷地の調査研究を行うとのことだったが、その後の状況を教えていただきたい。

A 1 2. 液状化対策については、土地の分析のためボーリング調査を行うこととしており、発注に向けて準備している。スケジュールとしては、5月に調査を行い、分析結果を踏まえて、効果的な方法を検討する。また、事業費規模がどれぐらいか協議・検討する必要があると考えている。

Q 1 3. ボーリング調査の対象はどこか。

A 1 3. 液状化の影響が大きかった港町で行う。

Q 1 4. ロードマップについて、液状化もロードマップの中に含めるのか、それともロードマップとは別に、ボーリング調査などを終えて個別に取りまとめるのか。

A 1 4. ロードマップは復旧復興に向けた工程を見える化するものであり、液状化についても記載する。内容の詳細な協議、検討していく中で少し変更になる可能性があるため、変更が発生した場合には、随時、ロードマップなども変更を加えながら周知を図っていく。

Q 1 5. ボーリング調査が終わった後に、個別の住民説明会のような場を設けるのか。

A 1 5. 調査する前にも事業説明をさせていただき、結果を踏まえた状況などについて住民の皆さんと情報共有をしていきたい。

Q 1 6 . ボーリング調査の結果共有について、住民説明会を開くのか。

A 1 6 . 住民の方と協議が必要であり、説明会を想定している。